

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム いつは		
	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成 31年 2月 26日	評価結果市町受理日	令和 元 年 6月12日

※事業所の基本

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設8年となりました。入所年月が経過するとともに、加齢にともなう体力の低下で、車椅子歩行や寝たきりになられる。認知症状も深くなり、なかなか自らの思いを話してくださらない。利用者様が何を思い、何を望んでいらっしゃるのかを感じ取ることが出来、どのように思っているのかを考えることが出来ますようにと努めています。また事業所の近隣には住吉神社・桜の名所の若山公園があり、少し足を延ばせば竜王山・きららビーチと風光明媚な場所が沢山あります。天候の良いときは外へ出掛けて行き、社会資源を活用し、利用者様の生き生きとした笑顔を引き出していくことが出来ますよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念や事業所の理念を基に、利用者の歩んでこられた人生を尊重され、その気持ちを大切にされて穏やかな生活を支援する取り組みを目指しております。管理者を中心に職員は、毎週、今週の目標を掲げておられ、利用者本位のケアに取り組んでおられます。職員は利用者の思いや意向の把握に努めておられ、日々のケアの中で意識的に声をかけられたり、紙芝居を活用して話のきっかけづくりをされるなど、話しかけの工夫をしておられます。接遇研修や職員間の話し合いなどを実施され、職員は落ち着いた声で丁寧な言葉づかいで利用者や家族に接しておられ、話をよく聞かれ、笑顔を絶やさず挨拶や言葉かけをしておられます。食事は法人の配食を利用しておられますが、事業所では変化する利用者の状態を把握され、利用者に合わせて食事の内容や形状にアレンジされて、どなたでも食事を楽しめるよう工夫しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で、理念に沿った介護をさせていただくことができますよう毎朝唱和しています。地域の皆様とも交流を持つ機会を設け、地域にとってなくてはならない施設となれまよう努めています	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念を事業所の理念とし、毎朝の申し送りで唱和している。職員は月1回のミーティングで理念に基づいたケアについて話し合い、毎週、介護目標を設定している。名札の裏に理念と介護目標を記載して、いつもそれを共有するように努め、各自が確認して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに利用者様と職員がともに製作した壁面工作等を展示し、定期的に『認知症カフェ』を開催しています。また地域の方がボランティアに来てくださり、交流を図っています	自治会に加入し、管理者が総会に出席し、年1回の清掃活動に参加している。地域の祭り(住吉まつり)に事業所の施設(駐車場、玄関、トイレ)を開放し、利用者と一緒に高齢者体験コーナーを開設している。利用者は事業所に来訪しているボランティア(お話、健康体操、尺八、ハーモニカ演奏)や拠点施設に来訪しているボランティア(須恵太鼓、大正琴、雅楽演奏、バルンアート、カラオケ、流しびなづくり)と交流して楽しんでいる。2ヶ月に1回、拠点施設が合同で「認知症カフェ」を実施し、利用者や職員が地域住民の参加者(12,3名)と交流している。利用者は近隣の散歩の時に地域の人と挨拶を交わすなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『運営推進会議』や『認知症カフェ』にて、自治会長や福祉委員、民生委員の方たちに認知症とは・・・の勉強会や、実際に触れ合っていたくことで理解を深めて頂く。また定期的に広報誌を発行している			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	月1回のミーティング時に、外部評価で問われていることを説明し、改善すべきところをどのように取り組んでいけばよいのか皆で考えて頂き、実践していけるよう努めている	自己評価はガイド集を回覧し、職員が評価のための書類の記入できる項目に記入して管理者がまとめている。外部評価結果は運営推進会議やミーティングで報告し、管理者が目標達成計画を立て、紙芝居を活用して利用者の思いの把握などの改善に取り組んでいる。全職員が評価の意義や項目について理解し、活用しているとはいえない。	・全職員による評価の意義の理解と自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況や利用者様の生活の様子を報告しています。研修会で勉強したことを話し合うこともあります。外部評価で出された課題も報告し、解決に向けて話し合いを行っています	会議は拠点内施設と合同で2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事や活動内容、事故、研修、自己評価、避難訓練などの結果を報告し、話し合っている。消防職員や交番職員などの意見を避難訓練に反映しているなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より密に連絡・相談を行い、助言や指導を頂いています。運営推進会議にも参加していただいています	市担当者とは、運営推進会議や市主催の会議、介護保険の申請や更新などで出向いた時、電話などで相談して助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、認知症カフェの開催についての相談や情報交換、利用者情報の交換をしているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『安全対策委員会』を主として、ミーティング時を利用し、身体拘束をしないケアの研修を行っています。事例等を紹介し、職員の知識の向上に努めています	職員は安全委員会主催の法人研修で年1回、内部研修で年4回学び、身体拘束しないケアについて理解している。内部研修に合わせて身体拘束適正化委員会を年3回実施している。玄関の施錠はせず、外出したい利用者とは職員と一緒に外出している。スピーチロックについては日常業務の中で職員同士で確認し合い、気になる場所は管理者が指導したり職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『安全対策委員会』を主として、ミーティング時を利用し、虐待をしないケアの研修を行っています。また夜勤帯は長時間を職員1人で対応するということで、職員の体調管理、ストレスの軽減に努めています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者様が『成年後見制度』を利用されており、職員全員で制度の必要性を理解しております。運営推進会議に司法書士の先生に来ていただき、勉強を重ねております		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様が理解・納得していただけたことを確認しながら説明をさせていただいています		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情に対する『窓口』を設置しております。ご家族様面会時や、毎月送付させていただいてますお便りの中にも、「ご意見・ご要望等がございましたら遠慮なくお知らせくださいませ」とお伝えしています。現在のところ苦情はありません	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて利用者や家族に説明している。家族からは、面会時に管理者や職員が声をかけて聞いたり、運営推進会議や電話で意見を聞いている。事業所だよりで利用者の日頃の様子を写真等を使って伝え、意見や要望を言いやすいよう工夫している。戸外に出かける機会を増やしてほしいという要望に対し、車イス散歩で自宅訪問をするなど、ケアに関する要望にその都度対応している。運営に反映させるような意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や苦情は常に受け付けています。その中から必要に応じて管理者会議にかけたり、また関係者と協議し、改善すべき点は改善しております	月1回のミーティングや朝の申し送り時、委員会活動(身体ケア、安全対策、食事サービス、口腔ケア、衛生、環境、広報)、日常業務の中で職員からの意見や提案を聞いている。職員確保についての意見があり、管理者が2ヶ月に1回開催される法人の「主任・管理者会議」で報告して採用に努めるなど、意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、施設長との面談の機会を設け、各職員の状況や努力していること、向上心があるのか等を確認しています。代表者はその結果を踏まえて職場環境や条件の整備に努めています		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験年数や力量に応じた法人内外の研修を行っています。また職員の経験に応じて、法人外の研修を斡旋しています	外部研修は、資料を職員に回覧して情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は認知症ケア、介護支援専門員虐待対策セミナー、メンタルヘルス研修に参加している。受講後は復命報告書を回覧して情報を共有している。法人研修は、拠点内で月1回、拠点内職員が講師となって、事故防止、接遇、食事、口腔ケア、認知症ケア、身体拘束・虐待、防災、褥瘡、感染症、AEDなどについて計画的に実施している。内部研修は、月1回のミーティング時に身体拘束について(年4回)、研修の復伝、資料の回覧をしている。新人は法人研修(10日間)受講後、管理者や先輩職員が働きながら学べるように指導している。	・内部研修の取り組みの工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修を通じて、同業者との交流を行っています。困難事例等の意見交換を行い、良いところは取り入れています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、本人様に合った入所方法を考えている。家族様と連携を取り、安心して生活していただける様信頼関係の構築に努め、本人様の要望もしっかりと聞かせていただいている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成者は、入所前には家族様と面談し、困っていることや心配していることを十分に聞き取る努力をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様が何を望まれているのか、何に困っていらっしゃるのかを丁寧に聞かせていただき、他のサービスの情報も説明し、自ら選択していただくことが出来ますよう努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活させて頂くという姿勢を大切にし、本人の能力に応じて、家庭で日々行っていたであろう事を職員とともにやっている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、担当者より本人様の日頃の様子を伝えている。本人様への支援方法を家族様も交えて考えている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も外出・外泊も自由に行ってもらっています。本人様より要望がありましたらご家族様へ伝え、職員にて出来る事があれば行っております	家族の面会や親戚の人、近所の人、同じ自治会の役員、知人、元職場の同僚などの来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。馴染みの店での買い物や自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての墓参り、葬儀や法事への参加、外泊、一時帰宅、外出、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での各利用者様の座る位置を考えている。また利用者様同士で会話ができる様に配慮している。状況に応じて職員が間に入り、利用者様が孤立しないよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族様の要望や相談事があれば応じています。家族様の支えとなれますよう努めています		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活習慣や生活歴、また本人様との会話の中から、本人様の要望や意向に沿うことができますよう努めています	入居時にセンター方式の基本情報シートなどを活用している。職員は紙芝居を活用するなどして意識的に利用者に話しかけて利用者の思いの把握に努め、日々の関わりの中で気づいた利用者のできることや発した言葉などを介護記録に記載し、利用者を担当している職員が私の暮らし方シートにまとめて思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得たり、本人の言動や反応の様子を見て、その都度職員間で話し合っ本人本位に検討している。新たに半年に1回アセスメントを行って思いの把握に努める工夫をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に面談を行い、本人様やご家族様から話を聞いている。担当ケアマネや相談員からも情報を得ている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事量、排泄、睡眠状態等の観察、また表情や顔色等をよく観察しながら対応している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティングの中でケース検討を行い、現在の計画書の見直しや、新しい課題がないか等を検討し、ケアプランに反映させている	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回のミーティング時のカンファレンスで、施設長のアドバイスを受けながら、主治医や看護師等の意見を参考に話し合い、本人の思いや家族の意向を反映させた介護計画を作成している。毎日介護記録でケアをチェックし、3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎にアセスメントして計画の見直しをしている他、状態の変化や要望に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別情報を記録した介護日誌、介護記録等を活用し、個人の体調や心身の変化について検討し、必要時には介護計画書を見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者様の声、思いを聴くように努力しています。また利用者様の声を家族様に届け、実現可能なことはサービスに取り込んでいます		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問や、地域行事に参加し、地域の方とも交流を図るようにしている。日頃から交番、病院等の機関とも連携を取り、利用者様の安全を確保できる様にしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望するかかりつけ医となっています。主治医を主として地域医療とも連携を図り、利用者様の健康管理に努めています。利用者様の体調不良時にも適切な医療を受けることが出来ますよう努めています	本人や家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科受診はかかりつけ医の紹介で事業所が受診支援している。歯科は月1回訪問診療がある。受診結果は介護記録や申し送りノートに記載して共有し、家族には電話で伝えている。夜間や緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師、協力医療機関の看護師と常に連携している。得られた情報は介護職員へも情報共有し、緊急時にもすばやく対応できるように体制を整えている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、毎週1～2回は面会に生かさせて頂き、ご様子を聞かせていただいています。またご家族様とも連絡を取りあい、できるだけ早期に退院できるよう支援しております		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、利用者様重度化や終末期のことをお話をさせていただいています。また家族様の気持ちも途中で変わることがあると思われるので、適時意向を確認させて頂いてます	契約時に本人や家族に「重度化及び看取り介護に関する指針」に基づいて事業所のできる対応について説明している。実際に重度化した場合は、本人や家族の意向を聞き、早い段階から主治医や看護師、家族らと移設を含めて話し合い、方針を決め共有して看取りのケアにも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者様一人一人の状態を日頃からよく観察し、予測できる危険リスクの予防策を担当者を主として考えています。応急手当や初期対応はミーティング時等を利用して、繰り返し皆で勉強しています	事例が生じた場合はその日の職員で話し合い、インシデントレポートや事故報告書に発生状況や再発防止策などを記録して朝の申し送り時に回覧している。月1回のミーティングで利用者を担当している職員が中心となつて対応策を再検討し、一人ひとりのに応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応やAEDの訓練を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるにはいたっていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行なっています。運営推進会議を利用して、自治会長や民生委員の方と地域の協力体制について話し合いを重ねています	年2回、拠点施設合同で昼夜の火災を想定した消火、通報、避難誘導訓練、避難経路の確認を利用者も参加して行っている。事業所の緊急連絡網に自治会長や民生委員、福祉委員の加入を得ており、運営推進会議で話し合っ利用者の見守りを依頼しているが、地域との協力体制が十分であるとはいえない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対しては、常に丁寧な対応を心がけています。家族様の大切な方を『いっは』を信頼して託してくださっている・・・という事を自覚することができる様、繰り返し職員へ伝えています	法人(拠点)研修で接遇について学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところがあれば管理者が指導している。個人記録の保管や取扱いに注意し、守秘義務について順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様との会話を多く持ち、思いを表出しやすい雰囲気作りに努めています。自己の思いを表すことが難しい方には、助言しながら思いを表すことが出来まよう支援しています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターン・リズムに合わせ、その方らしく、またその方の望む暮らしに近づけることができる様支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張美容室が来苑し、本人の望む髪型にカットしています。また髪染めを望まれる方には家族の許可を得て職員が対応しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳車を一緒に取りに行く、食後の下膳、トレー拭きなどを行ってもらっています。またパンの好きな方には主食をご飯からパンにする。みそ汁をボタージュスープにする等、極力本人の好まれる食事形態に近づける努力をしています	朝の汁物とご飯は事業所でつくり、その他は三食とも法人の配食を利用している。利用者に合わせた内容や形状を工夫し事業所でアレンジしている。利用者は台拭き、ランチョンマット拭き、トレー拭き、盛付けなどできることを職員と一緒にしている。誕生日会のおやつづくり、おせち料理やクリスマスのケーキ、地域の祭りの出店の料理、月数回のおやつづくり(ホットケーキ、フルーチェなど)、個別外出での外食(うどん、寿司)、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、トロミ剤等の使用で、1日の食事量や水分の摂取量が確保できるよう努めています。また栄養士とも相談しながら、栄養の過不足がないか、安全に食事が取れているか等も確認しています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後には各利用者様に合った口腔ケアを行っています。夜間は義歯を洗浄液に浸け、清潔の保持に努めています		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて各利用者様の排泄パターンを確認しています。不要な紙オムツ等を使用することのないよう、またコストの削減に日々取り組んでいます	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、習慣を活かして、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導の工夫をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、バランスの良い食事や水分補給に努めている。日常生活の中でも、少しでも身体を動かす機械を増やせるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の前には必ず本人に声を掛け入浴の有無を確認している。入浴を好まない方には、本人の思いを聞きながら、少しでも楽しく入って頂くことができる様努めている	入浴は毎日、10時から12時までの間かぬ尾で、利用者の状態や希望に応じて2日に1回は、職員と会話を楽しんだり、歌を歌ったりしながらゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。好みに合わせたシャンプーや入浴剤を使用したり、季節のゆず湯やバラ湯を楽しんでいる。入浴したくない人には、タイミングを計ったり、職員の交代、言葉かけなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせて足浴や清拭、シャワー浴、部分浴など一人ひとりに応じた支援をしている。入浴後は好みの飲み物を用意して水分補給をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思にて入所して頂いてます。眠れない方にはテレビを観て頂く、温かい飲み物を飲んで頂く等、フロアでくつろいで頂いてます。居室内も安眠できる様、室温調整を行い、明かりの調整も行っています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が使用している薬は全職員で理解、把握しています。定期薬の変更や、臨時薬の処方があった際には、利用者様に変化がないか要注意、観察し、医師や看護師とも連携しながら対応しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の得意なことを把握し、家事作業での手伝いや、役割を持って頂くことで力を発揮でき、張り合いのある生活を送って頂くことができますよう支援しています	季節の行事(事業所内の手づくり「いろは神社」の初詣、節分、敬老会、運動会、クリスマス会)や誕生日会、ボランティア(大正琴、ハーモニカ演奏)との交流、2ヶ月に1回の認知症カフェでの地域の人との交流、いろは喫茶(拠点3事業所合同で年2回開催、仮装や浴衣でお茶を楽しむ)での各利用者間の交流、七夕の飾りつけと大型商業店舗での展示、壁面飾りづくりと自治会総会での披露、テレビを見る、新聞を読む、歌を歌う、しりとり、カルタ、ちぎり絵、折り紙、貼り絵、リースづくり、脳トレ(塗り絵、四文字熟語など)、体操(きよしのズンドコ節、ラジオ、口腔、リハビリ、365歩のマーチ)、風船バレー、玉入れ、バランスゲーム、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換、フロアや居間の掃除、食事の準備や片付けなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いろはは近隣の散歩や花見、七夕飾りの見学にてサンパークに行きました。寝たきりの方や、車椅子の方が増え、外出が難しくなっていますが、家族様の協力も得て外出することが出来ますよう努めています	季節の花見(桜、バラ、コスモス、紅葉)、住吉神社、法人(なみもと)の夏祭り、買い物(サンパーク、コスモス)個別の外食、外気浴や散歩、家族の協力を得ての買い物や美容院の利用、親類宅の訪問、墓参り、寺参り、日帰り旅行、外食、外泊など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設にて管理しておりますが、散歩に出た時やすみよし祭り際には、家族様と相談した金額を自ら持っていただき、買い物を楽しんでいただいています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が望まれれば電話も手紙も自由に行って頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の壁面工作を飾り、また季節の花や、お雛様等を飾っています。フロア内は明るく、スペース空間も広く、利用者様にはゆっくりと過ごしていただくことが出来ます。常に換気に努め、快適な空間となるよう努めています	2階建ての2階に位置し、スタッフルームをはさんで左右にユニットがある。リビングは広々としており、拠点3事業所合同のイベントの多くをそこで開催している。居室を見渡せるところにアイランド型のキッチンがあり、食事の準備の音や料理の匂いが漂い生活感を感じることができる。窓からは明るい陽射しが差し込み、季節の壁面飾りやカレンダー、生花や造花、雛飾りなどを飾っている。ゆったりとしたソファでは畳のコーナーに設置したテレビを楽しむなど利用者が思い思いにくつろいでいる。温度や湿度、換気などに配慮して居心地よい環境を保っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内では各自思い思いの場所で過ごされています。ソファに座ってテレビを楽しむ。テーブルでパズルをされる。また職員との会話を楽しむ等自らの意思でゆっくりと過ごされています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い馴染んだものや、愛着のあるものを持ち込んで下さる様、家族様にお願いしています	寝具、箆笥、小箆笥、衣装ケース、椅子、テレビ、時計、クッション、ぬいぐるみ、日用品などの使い慣れたものを持ち込み、家族や自分の写真、カレンダー、誕生日会の色紙、表彰状、造花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内のバリアフリーや、必要な個所に手すりを設置。また利用者様の動線を確認、把握して安全に過ごしていただくことが出来ますよう努めています。利用者様の出来る事にはあまり手出しせず、見守らせて頂いています		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム いつは

作成日: 令和 元 年 6 月 12 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	外部評価を実施する意義や、外部評価で問われている項目を全職員が十分に理解できておらず、また活用できていない。	全職員が外部評価の意義、問われている項目内容を理解する。外部評価を活用し、利用者様が安心して、落ち着いて、心穏やかに生活することができる様にする。	外部評価で問われている項目が全部で56項目あります。毎月行われているミーティングを利用し、2～3項目ずつに分け、職員に求められていること、改善すべきこと等を話し合い、全職員が外部評価を活かしたケアを行うことが出来るようにする。	2年
2	14	グループホームは資格がなくても業務に就くことができるが、職員不足、また勤務時間が変則的ということで、なかなか研修の機会を設けることが出来ない。	まずは利用者様が安全に安心して生活していただくことが出来ますよう、介護職員としての基礎知識を全員が取得する	毎月行われているミーティングを利用し、まずは食事・入浴・排泄の3大介護から勉強していただく。全員の理解度を確認しながら進めていく。	2年
3	35	勤務時間が変則的ということで、職員の緊急時の対応技術がどのレベルなのか、きちんと把握できていない。	全職員が、緊急時の初期対応や、応急手当をあわてずに落ち着いて行なうことができる様になる。	毎朝のカンファレンス時や、毎月行われているミーティングを利用し、繰り返し対応法を勉強する。	2年
4	36	住吉町、昭和通りと2つの自治会にまたがっているが、どちらの自治体も高齢独居の世帯が多い	災害が起こった際、速やかに利用者様や地域の住民の皆様が安全に避難することが出来ますよう、地域との協力体制を整える。	運営推進会議を活用する。時には消防士や警察職員にも参加いただき、自治会長や市の職員も交え、最近よく聞かれるようになった想定外の災害にも備えることができるよう、常に協議を行う。	2年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。